

---

## 地震発生

(由井りょう子ほか・著、石巻赤十字病院の100日間、東京、小学館、2011、p.11-28)

2012年7月6日、災害医学抄読会 <http://plaza.umin.ac.jp/~GHDNet/circle/>

---

2011年3月11日午後2時46分、東日本大震災が発生した。各病院では緊急災害時のための迅速な対策を求められたが、宮城県石巻市にある石巻赤十字病院は非常に早かった。

災害発生からわずか4分後の午後2時50分には、金田副院長を本部長とする「災害対策本部」が立ち上がった。災害対策本部には宮城県災害医療コーディネーターの資格を持つ石井医師や、DMATの資格を持つ者もいた。また、災害発生と同時に職員はマニュアルに則り、患者の安全確保・自身の安全確保を行い、まとめて各部署の責任者は災害対策本部へ報告した。休暇や非番・出張などで院外にいる職員は、自身の安全確保および家族・肉親の安全確保を最重要とし、そのうえで自主登院あるいは所属する部署に連絡を入れた。

院内は自家発電に切り替わり、ほとんどの医療用器具は問題なく動いた。テレビとパソコンによる情報収集を行い現状の把握を行った。家屋の倒壊などにもなう多くの負傷者、クラッシュ症候群など、災害時に特徴的な患者が殺到するだろうと予測され、対策本部ではトリアージエリア設置に取りかかった。場所は玄関を入れてすぐのロビーが選ばれた。外来診察は中止されトリアージが優先されたが、患者からは不満の声も上がり職員たちはその対応もしなければならなかった。

ロビーにはトリアージの色である緑色と黄色のビニールシートが敷かれ、簡易ベッドなどが用意された。また、トリアージを行うトリアージ班と、赤・黄・緑・黒班が割り当てられリーダーを決めた。それぞれのメンバーは色分けされたビブスを着用した。ここまでわずか1時間であった。

- 宮城県災害医療コーディネーター

- (1) 災害の状況に応じた適切な医療体制が構築されるよう助言

- 県が、発災地市町村（医療機関を含む）の対応状況を把握し、DMAT 派遣や受入医療機関の確保などの必要な支援を行うための助言を行うもの。

- なお、それら支援に当たっては、県が現地の医療体制を指揮・指示するのではなく、市町村（当該圏域）が自主的に住民に対して行う救護活動を妨げるものではない。

- (2) 傷病者の受入医療機関確保のための調整

- 基本的には、被災地以外の医療機関への患者受け入れ調整を行うものであるため、県現地災害対策本部の災害医療コーディネーターについては、当該地域内の医療機関への受け入れ調整は行わない。なお、災害医療コーディネーター間に、県災害対策本部と県現地災害対策本部とでの上下関係はなく、互いに連携して業務に従事してもらう考えである。

- DMAT（ディーマット）

- 災害派遣医療チーム Disaster Medical assistance team の頭文字。

- 「災害急性期に活動できる機動性を持ったトレーニングを行けた医療チーム」と定義される。

- 医師、看護師、業務調整員（医師・看護師以外の医療職及び事務職員）で構成され、大規模災害や多数の傷病者が発生した事故などの現場で、急性期（だいたい 48 時間以内）に活動できる専門的な訓練を受けた医療チーム。2005 年発足。

- トリアージ

- 多数の負傷者が出る災害や事故、戦争などに際して救急隊員や医師が患者を選別し、治療の優先順位をつける行為。

- (赤) 最優先治療者、(黄) 非緊急治療、(緑) 軽処置、(黒) 不処置群に振り分けられ、荷札のようなトリアージタグを患者の手首や足首につける。タグには名前や年齢、血液型、簡単な症状を記入する。

#### 参考文献

宮城県 HP [www.pref.miyagi.jp/et-hc/kikakusoumu/.../H22senmon3-siryou2.pdf](http://www.pref.miyagi.jp/et-hc/kikakusoumu/.../H22senmon3-siryou2.pdf)

DMAT HP <http://www.dmat.jp/>